

# 開学20周年を迎えて

2019.6.7

秋田県立大学 学長 小林淳一

本日はご多用にもかかわらず、本学の設置者である秋田県の佐竹知事をはじめ、加藤県議会議長、県議会議員の皆様、また、国会会期中のお忙しい中、富樫博之衆議院議員、文部科学省からは浅田和伸文部科学省大臣官房 文部科学戦略官、大学からは、公立大学協会会長の鬼頭宏静岡県立大学学長ほか県内外の大学の学長の皆様、また、本学を日頃から応援してくださる本学後援会の工藤弘之会長をはじめ、県内市町村・高校、地元企業・団体の皆様、そして、今日の本学を築いてくださいました元学長や役員、名誉教授の皆様、他多数の方々に、秋田県立大学開学20周年記念式典にご臨席を賜り大変ありがとうございます。教職員を代表して御礼申し上げます。

さて、本学は、1999年4月1日に開学し、今年で20周年を迎えることができました。第1期生たちはそれぞれの分野で中堅社員となり、なくてはならない存在として活躍しています。大学の歴史、文化が大分できてきたように感じています。

この20年を振り返りますと、私の前には3人の学長がいらっしゃいました。初代の鈴木学長は本学のスタートアップをリードし大学の骨格を作られました。県立大学として県との交渉の中で本学の立ち位置を明確にされ、県からの厚いサポートを取り付けました。2代目の小林学長は、大学の法人化を成し遂げ、大学の意思で運営ができる新しい大学運営をスタートさせました。そして3代目の小間学長は、本学を「教育を重視する研究大学」と定め進むべき方向性を明確にしました。この心は、より深い学生教育を実現するためには、そのベースとなる研究が必要条件である事を示したものです。

そして私は、今までの流れを維持しながら、少し別な視点で大学を運営しています。それは「信頼され、尊敬される大学」を目指そうと言うものです。20年間教育、研究、地域貢献にかなりの実績をあげてきました。しかしまだそれぞれが点であり、線や面での繋がりにまでは至っていません。ここを改善することにより、大学として大きなメッセージが発信できます。そしてさらに真に期待される大きな成果を上げることにより、本学のプレゼンスが定着し、「信頼され、尊敬される大学」が実現できるものと考えています。

そのための具体例として「スマート農業」を実現するプロジェクトを昨年立ち上げ現在詳細計画を作っています。「スマート農業」とは、**Society 5.0** の農業版です。農業生産、流通に関するあらゆるものをデジタル化し、農業を仮想空間上で再現し、実空間と仮想空間をインタラクティブに繋ぎながら、蓄積したビッグデータから AI 等を活用し最適な農業生産、流通を行う全く新しい農業です。本学は、工学系と農学系からなる大学でありその強みを活かすことができます。これは県との約束でもある昨年からスタートした第 3 期中期計画にも入れています。

大潟村には、190ha の大きな圃場があります。そこを拠点化し、新しい農業の姿を作り上げると共に、全国、世界でも注目される存在になりたいと考えています。本学だけではできませんので、県庁、農業試験場、実際に活躍されている農業法人や農業者、農機具大手メーカ、最先端の情報系企業、銀行などにも参画してもらいます。将来的には、他大学、他研究機関との連携も考えています。

ターゲットとしては、まず秋田の農業を考え、世界で戦える大規模法人農業、担い手を確保した特徴ある小規模農業、年間を通して稼げる周年農業、さらには市場のニーズに素早く応えるアグリビジネスモデル等に分け、セグメント毎課題を整理し、研究開発を進めていく計画です。

また共通インフラとして、圃場には次世代通信 5G を張り巡らせ、情報の取得、伝送の仕組みを実証します。また農業ビッグデータから有用な情報を抽出する方法も細かく研究します。本学の教員は、すでに積極的に活動しており、工学系と農学系の先生が協働でいくつかの研究を学長プロジェクトとしてスタートさせています。

そして、もう一つの大きな柱として、このようなスマート農業を担える人材育成のための教育システムの構築も行っています。ターゲットは、学生その他、既存の農業者、農業承継者さらには新たに農業に参入しようとしている社会人です。

その他、秋田大学、地元企業、自治体と一緒に、地域の高性能モータのシーズ技術をコアにし、航空機制御システムの電動化等のアプリケーションの拡大を目指す技術開発や、風力を中心とした再生可能エネルギーの活用によるサステナブル社会の実現に繋がる技術開発を通し、秋田における新産業創出プロジェクトを立ち上げると共に、これらに対応した高等教育の人材育成体制についても計画を進めています。

さて話は変わりますが、これからの大学は、横並びではなく、大きな特徴を持つ必要があります。本学の一番の特徴とは何か、それを考えてみますと、卒業する学生がほぼ全員「先生や職員との距離が近かった。」と言う言葉を口にします。

これは自分が想像していた以上にずっと教員や職員たちが身近に寄り添ってくれたと感じたからだと思います。勉強に関することはもちろん進路や悩み事まで幅広く支援を受け、色々な壁を乗り越えることができたと実感したからです。

このことは、本学での学びや生活の中での課題に対し、教員や職員の指導の下その課題をクリアすることにより達成感、成功体験が積み重ねられ、それが自信となり、結果として学生が在学中に大きく伸びたことを意味しています。そしてそのことは、就職した会社での高い評価に繋がっています。新しく入られた教員も学生への対応に関し、自然にこの流れの中に溶け込んでいます。

この教育スタイルは一朝一夕でできるものではなく、本学の開学以来積み上げられてきたもので、教育の根底に流れ、本学独自の文化を形成し、代表的な特徴になっているのではないかと考えています。

しかし、本学の特徴として外から見ても分かるようにするためには、これを「成長のためのメソッド」として「見える化」していかなければならないと考えています。

私は常日頃から誰でも心のスイッチが入ると他の人にはできない能力が発達すると信じています。従って、教育は、様々なメニューを用意し、学生のスイッチを入れさせることだと考えています。その一つが本学独自の学生自主研究制度です。1,2年生から課題に挑戦しそれを乗り越えるために悩み苦しみながら、教員からの適切なアドバイスにより、「そうか!」と言ってはじけ、研究することの意味や楽しさを知るのです。そして高いレベルの卒業研究に繋がっていきます。他にもいくつか仕掛けがありますので、それらを「成長のためのメソッド」の構成要素として積み重ねていき、秋田県立大学と言えば「これ!」と言われる特徴に仕上げていくつもりです。

開学 20 周年を迎え、本学の伝統を守りさらに教育、研究、地域貢献に教職員一丸となって地道に取り組んでいきたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます、私の挨拶といたします。

本日はありがとうございました。

以上